

IBL REPORT

第33期 報告書

平成26年4月1日

▼
平成27年3月31日

株主の皆様へ



ごあいさつ

平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社は、平成19年3月に株式上場いたしまして、幾度となく厳しい経営環境を乗り越え、今年9月に会社設立34年を迎えることとなります。

これもひとえに、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。

ここに、平成27年3月期の報告書をお届けいたします。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 高橋 勉

企業理念

生物の生命維持に不可欠である免疫機構「抗体」について研鑽し、人類が病気から安全に免れるような医薬品や診断薬を提供いたします。そして、世界で難病に苦しむ人々が一日も早く病気を克服し明るく豊かな暮らしを営めるように貢献いたします。

次ページより、当社グループの紹介をしております▶▶▶

財務データ

		H23.3	H24.3	H25.3	H26.3 (連結)	H27.3 (連結)
売上高	(百万円)	1,059	915	800	670	729
営業利益(△は損失)	(百万円)	△64	23	8	△107	△181
経常利益(△は損失)	(百万円)	△34	54	80	△99	△139
当期純利益(△は損失)	(百万円)	△103	42	153	△114	△158
1株当たり当期純利益(△は損失)	(円)	△16.79	6.94	24.83	△17.99	△24.20

※平成23年3月期から平成25年3月期までの3期分は非連結になります。また、同3期分の1株当たり当期純利益につきましては、平成25年10月1日に普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っているため、分割後の数値に修正して記載しております。



株式会社免疫生物研究所
Immuno-Biological Laboratories Co., Ltd.

証券コード 4570

遺伝子組換えカイコ事業から化粧品業界を改革!

ネオシルク®-ヒトコラーゲンI の事業性が注目されています。

遺伝子組換えカイコの繭より抽出したネオシルク®-ヒトコラーゲンIは、**これまでの化粧品の常識を覆す原料として注目されています。**

これまで、化粧品に使われてきた異種動物のコラーゲンは、体内に侵入した場合に異種タンパク質と認識され、アレルギーを引き起こす原因となる可能性を否定できませんでした。

免疫生物研究所では、独自で開発したネオシルク®-ヒトコラーゲンIを化粧品に応用することに成功いたしました。多くの化粧品ユーザー様にヒト型コラーゲンの良さを知っていただくことで、化粧品業界で使われるコラーゲンも安全で安心のヒト型コラーゲンに変わると信じております。

すでに、ネオシルク®-ヒトコラーゲンIを

使用した100%子会社ネオシルク化粧品のほか、いくつかの化粧品メーカーでヒト型コラーゲンが採用され始めております。

特に、通販チャンネルを採用することで、多くの化粧品ユーザー様にご使用いただくことを目的としております。

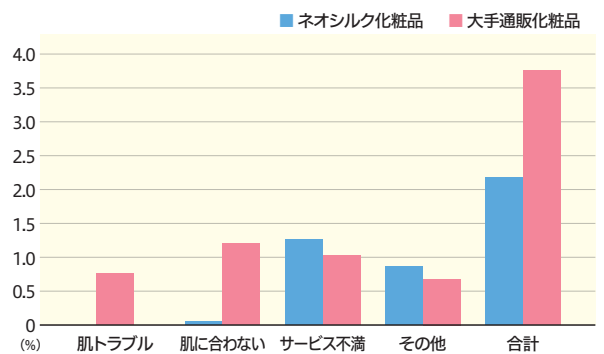
1 なんと99.9%の驚異の納得率!



ネオシルク化粧品をお試しいただいた方からの声で最も多いのが、「今まで化粧品で肌荒れすることが多かったけれど、トラブルなく使える」という感想です。実際に平成26年7月より販売を開始して以来、ネオシルク化粧品の肌トラブルによる返品率は、なんと「0(ゼロ)」!肌に合わないということで、返品された方も総販売数に対して、「0.1%以下」というデータがあります。これは、一般の通販化粧品の返品率に対し1/50という驚異的な数値です。

「肌荒れのない化粧品」、これは化粧品ユーザー様にとって大きな魅力です。

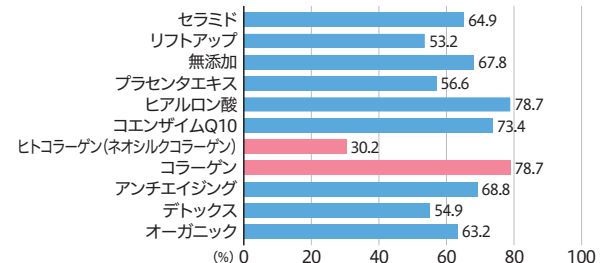
■ネオシルク化粧品と大手通販化粧品の返品比較



2 コラーゲンは、化粧品原料でも使いたい率78.7%でNo.1

2,000人の化粧品ユーザー様を対象に「化粧品で使ってみたい原料」のアンケートでは、実に78.7%がコラーゲンを知っており、使ってみたいとの結果が。さらに、まだネオシルク®-ヒトコラーゲンIを知らない方に、「ヒトコラーゲンを使いたい」をアンケートすると、実に30.2%の化粧品ユーザー様が「使ってみたい」という結果になりました。ヒトコラーゲンの優しさや、ヒトコラーゲンへの期待が高まっていることを証明しています。

■化粧品成分の知名度と使いたい原料(アンケート回答上位10位)

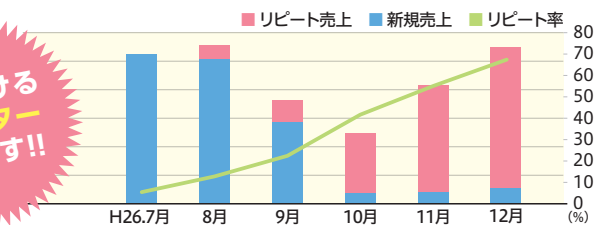


3 ネオシルク®-ヒトコラーゲンIのネオシルク化粧品の継続率は、業界でも驚異の60%以上!

ネオシルク化粧品の発売開始は、平成26年7月でした。7月~9月までマスメディアへの広告で愛用者を増やし、その後広告を10月~12月まで行わず、一度試していただいたユーザー様の継続率を計測。なんと、60%以上のユーザー様にリピートいただきました。ネオシルク化粧品では、Webや通販戦略をしっかりと行い、これからの成長が期待されます。



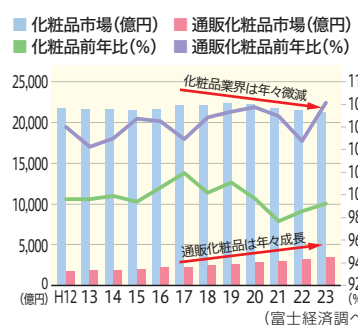
■ネオシルク化粧品の新規及びリピート購入状況



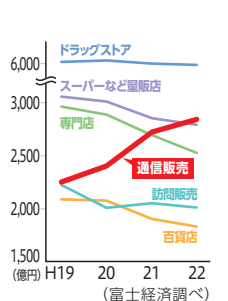
4 通販は化粧品業界でも唯一成長するチャンネル3,500億円市場

化粧品業界参入のため、まずネオシルク化粧品がターゲットにしたのは、通販化粧品市場。2兆円と言われる化粧品市場は、年々微減傾向にある中、通販化粧品は唯一3,500億円市場で成長しております。化粧品の購入チャンネルでもすでに30%を超え、チャンネルでは第2位の実力。多くのユーザー様を作るためにも、ネオシルク化粧品は通販業界に参入いたしました。ノウハウの必要な通販化粧品業界ですが、化粧品通販の会社へ通販部分の代行を行うことで、人的リソースのリスクを減らし、事業採算性の優位性も考慮しております。ますます、ネオシルク化粧品の成長が期待できます。

■化粧品の市場規模の推移



■化粧品の販売チャンネル



第33期の主なニュース

【診断・試薬事業】

国内の研究用試薬においては、タカラバイオ株式会社との独占販売契約を非独占販売契約に変更したことで収益性が向上したほか、ユーザーの皆様と直接情報交換を行うことにより、販売機会が向上しております。また、海外においても海外担当部署の設置によりアルツハイマー病関連製品を始め、幅広い分野での製品が販売されました。

体外診断用医薬品では、動物用体外診断用医薬品である牛海綿状脳症測定キットの販売を行っており安定した収益源となりました。

その結果、当セグメントの売上高は504,917千円(前年同期比3.0%減)、営業損失は26,594千円(前年同期は51,234千円の営業損失)となりました。

【遺伝子組換えカイコ事業】

作製された有用なタンパク質を体外診断用医薬品および動物医薬品原料として医薬品関連企業等への販売が増加しております。また、アステラス製薬株式会社と共同研究を実施している「ヒト型フィブリノゲン」を原料とする医薬品の開発は、共同研究の結果を踏まえ、新たな共同研究を本年3月31日付で締結し、契約一時金を受領いたしました。

さらに、同事業では、インフルエンザワクチンの共同開発を始め、医薬品関連企業等との研究開発を進めております。

その結果、当セグメントの売上高は90,519千円(前年同期比238.6%増)、営業損失は44,881千円(前年同期は63,177千円の営業損失)となりました。

【検査事業】

大型受注を見込んでいた新規脂質異常症治療薬開発プロジェクトが中止となり販売額が大幅に減少しましたが、他の取引先のサービスは増加しております。また、近年のペットブームの影響によりペット向けのコレステロールおよび中性脂肪の測定サービスが順調に伸びております。

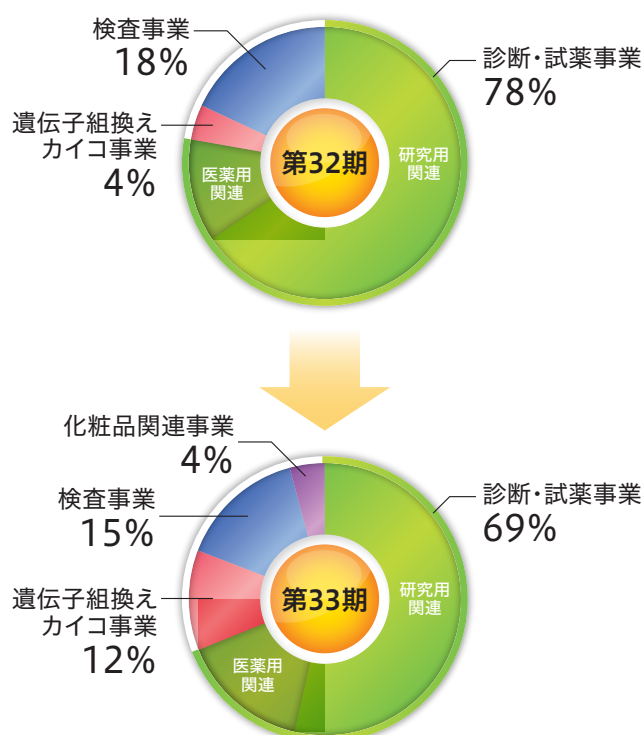
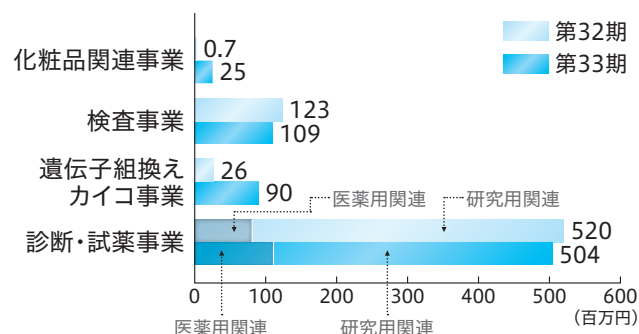
その結果、当セグメントの売上高は109,977千円(前年同期比11.0%減)、営業損失は38,807千円(前年同期は17,914千円の営業利益)となりました。

【化粧品関連事業】

株式会社エムコスメティックス(本年3月31日付で当社保有の同社全株式を第三者へ譲渡済み)の経営不振により売上高は伸び悩みました。また、連結完全子会社の株式会社ネオシルク化粧品においては、昨年7月より通信販売サイトを立ち上げ、ネオシルク®-ヒトコラーゲン配合化粧品「フレヴァン」を直接消費者の方々へお届けするため、広告宣伝及び販売促進活動を積極的に行っており、来期以降の販売増を目的とした広告宣伝費が増加いたしました。

その結果、当セグメントの売上高は25,213千円(前年同期比3,248.4%増)、営業損失は74,923千円(前年同期は13,818千円の営業損失)となりました。

セグメント別売上高と売上高構成比



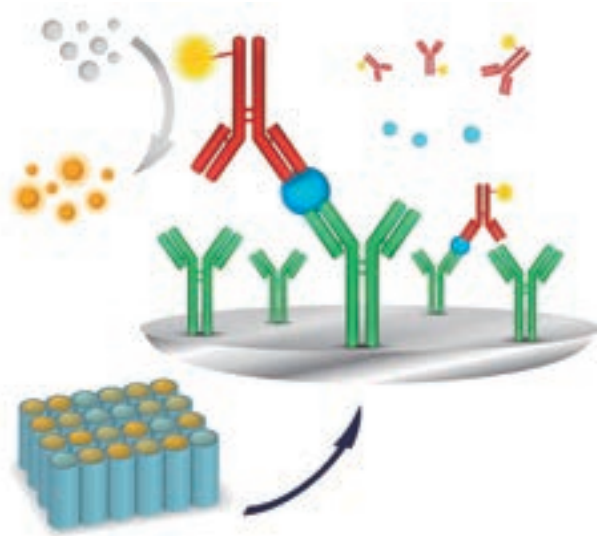
時代の流れに柔軟に対応し、 新たな技術・事業の獲得に積極投資

当社は昭和57年に設立以来、抗体作製技術を基盤として、アルツハイマー病、がん、自己免疫疾患、およびメタボリックシンドローム関連疾患などの抗原(約5,000種類)に対して抗体を作製し、難病の研究に必要な研究用試薬の開発・販売を主な事業としてまいりました。

当社は、バイオ・ライフサイエンスの領域にて事業を営んでおります。本領域での競争が激しいグローバル社会においては、常に新しい技術に目を向け、動向を見極め、柔軟に対応していかなければ、会社の維持・発展が望めません。

そのような観点から、当社では10年以上も前から、抗体作製技術を基盤とし、新規分野および新事業への参入を模索し、新たな技術と事業獲得に向け、積極的に投資してまいりました。

その結果、当社は、従来の診断・試薬事業に加え、遺伝子組換えカイコ事業、検査事業、および化粧品関連事業を獲得し、4つの事業を柱とし、新・旧事業の有機



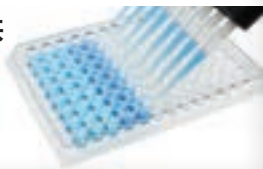
的な融合により、経営基盤が強固なグループ企業として組織を編成いたしました。グループ間のシナジー効果を発揮し、グローバル社会において競争力および収益性の高い企業経営を目指してまいります。

IBL IBLグループ

～4つの事業を柱とし、グループ会社として組織を編成～

I 診断・試薬事業

- ・ 研究用試薬の開発および製造販売
- ・ 医薬シーズの研究開発
- ・ 受託サービスの提供
- ・ 診断薬原料の供給
- ・ ライセンシング



II 遺伝子組換えカイコ事業

- ・ 研究用試薬・診断薬用抗体の製造
- ・ 化粧品用ヒトコラーゲンの製造
- ・ 医薬品タンパク質の開発



III 検査事業



(株) スカイライト・バイオテック
(連結子会社)

生活
習慣病

予防医療支援

CHART

動物医療支援

LOWEST

創薬・研究支援

SuperNORM

RESEARCH

IV 化粧品関連事業



(株) ネオシルク化粧品
(連結子会社)

ネオシルク®-ヒトコラーゲンIを贅沢に配合し、原料の由来にこだわった安全性の高い化粧品を開発いたしました。



診断薬市場における事業拡大

既存製品ポートフォリオを活かした体外診断薬の開発

既存の研究用試薬製品のポートフォリオを見直し、体外診断薬シーズと成りうる優位性が認められる製品を選抜し、当社自ら薬事申請を行い、体外診断薬の製品開発および製造販売することを計画・実施しております。

大学との共同研究から生まれた新規診断項目や、既存の体外診断薬を自動分析装置対応の製品化に向けて、開発を進めております。



検査事業と診断・試薬事業の連携強化

メタボリックシンドローム関連試薬 測定サービス

当社の連結子会社である株式会社スカイライト・バイオテックの検査事業では、当社が保有する豊富な製品ラインアップのメタボリックシンドローム関連試薬(高血糖、高血圧、脂質代謝異常など)を利用し、同分野

のユーザー様へ測定サービスを提供しております。

関連学会への共同出展にて、グループ間のシナジー効果を最大限発揮できるよう努めてまいります。



遺伝子組換えカイコ事業

遺伝子組換えカイコから産生したヒト型フィブリノゲン 医薬品原料の製品化に向け邁進!

当社は、アステラス製薬株式会社と、遺伝子組換えカイコの生産系による安全なヒト型フィブリノゲン医薬品の共同研究開発を進めており、性状に関する基礎検討、および医薬品に向けた製造方法の検討等を終了し、ヒト型フィブリノゲンの大量生

産に向けた製造方法の検討、およびパイロットプラント(群馬県前橋市)による試験生産実施に向けて、新たな共同研究契約を締結いたしました。安全なヒト型フィブリノゲンの安定供給と、生産性向上の実現を目指してまいります。

遺伝子組換えカイコを用いた革新的なタンパク質生産技術



フィブリノゲンとは?

フィブリノゲンとは、外科手術における組織の接着・閉鎖、止血などに使用される血液凝固に関わる中心的分子です。フィブリノゲンは、複雑なタンパク質で、微生物等での作製が困難であるため、現在、ヒト血液由来の製剤が使用されております。

▶▶▶ 遺伝子組換えカイコで、フィブリノゲンを生産するメリットは? ◀◀◀



当社では、遺伝子組換え技術にて、カイコ繭からヒト型フィブリノゲンを効率よく作る画期的な作製法の開発に成功しており、カイコ繭から抽出されるヒト型フィブリノゲンは、ウイルス混入の懸念がなく、安全なヒト型フィブリノゲンを安定してカイコ繭より大量生産することが可能です。

▶▶▶ 遺伝子組換えカイコによるタンパク質生産技術とは? ◀◀◀

カイコは、数千年の養蚕の歴史の中で、絹糸の生産性を高めるため繭を大きくする方向で品種改良が繰り返された生き物です。その結果、カイコには、多量の絹タンパク質の塊を短時間で合成する能力が付与されました。当社は、カイコの持つ優れたタンパク質合成能力に着目し、10年以上の歳月をかけ、繭に多量の組換えタンパク質を生産する遺伝子組換えカイコ作製技術を開発してきました。古典的な養蚕技術に先端的な遺伝子組換え技術を融合することにより、革新的なタンパク質生産技術を確立し、新しい蚕産業の復興(シルクルネッサンス)を目指します。



第33期 定時株主総会の決議ご通知

平成27年6月26日開催の第33期定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

報告事項

- 第33期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。
- 第33期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

議案▶取締役6名選任の件

原案のとおり、清藤勉、前田雅弘、中川正人、小野寺昭子、富田正浩、福永健司の6氏が選任され就任いたしました。

会社の概況

会社概要 (平成27年3月31日現在)

商号	株式会社免疫生物研究所 Immuno-Biological Laboratories Co.,Ltd.
設立	昭和57年9月9日
資本金	1,846,099,460円
従業員数	45名

主要な事業所

本社・研究所	群馬県藤岡市中字東田1091番地1
三笠研究所	北海道三笠市

子会社

株式会社スカイライト・バイオテック(連結子会社)
秋田県秋田市(本社・解析センター)、東京都千代田区(東京サービスセンター)

役員 (平成27年6月26日現在)

取締役

代表取締役社長	清藤 勉	取締役	富田 正浩
取締役	前田 雅弘	取締役	福永 健司
取締役	中川 正人		
取締役	小野寺昭子		

監査役

常勤監査役	宗像 発秋		
監査役	石原 靖議		
監査役	田山 毅		

(注)1. 取締役福永健司氏は社外取締役であります。

2. 監査役石原靖議及び田山毅の両氏は、社外監査役であります。

株式会社ネオシルク化粧品(連結子会社)
群馬県藤岡市(本社)

株主メモ

証券コード	4570
単元株式数	100株
事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日
配当の基準日	期末配当/3月31日 中間配当/9月30日

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711(通話料無料)
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 公告掲載URL (http://www.ibl-japan.co.jp)



〒375-0005 群馬県藤岡市中字東田1091番地1
TEL: 0274-22-2889(代表) <http://www.ibl-japan.co.jp>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用し、環境に優しい植物油インキで印刷しています。